



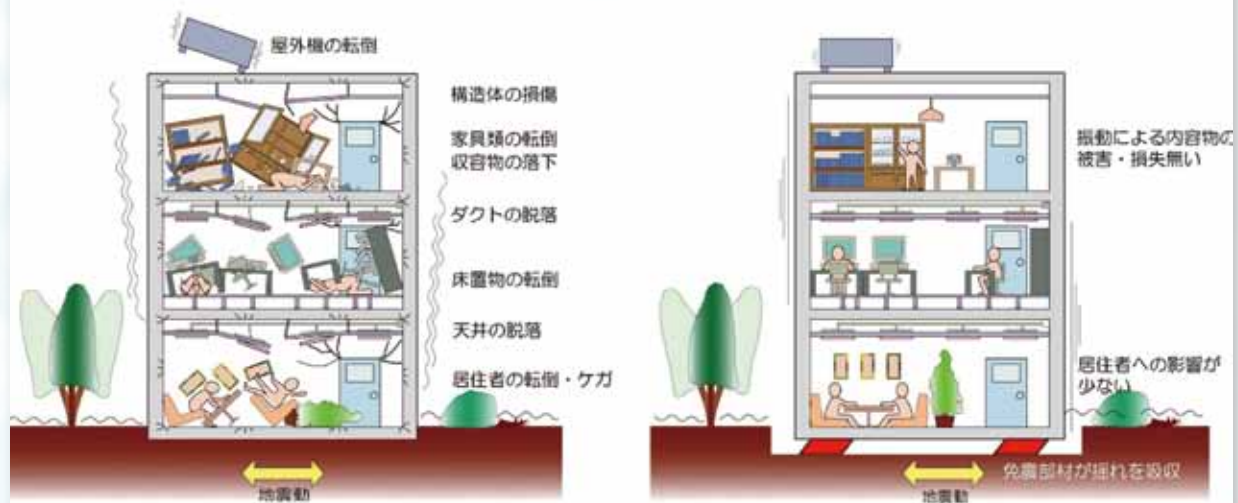
新病院建設のお知らせ

現在、基礎躯体工事が終了し、免震装置を設置しました。



免震装置とは

免震建築物は、地面の上に免震装置がありその上に建物がのっています。地震時に免震装置が地震の揺れを吸収することで建物に地震の揺れが伝わりにくくなります。建物には、免震装置で吸収できなかった地震の揺れが少し伝わるだけです。



免震建築物

地域の皆様方には長期にわたりご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解とご協力をお願い致します。

2016年 夏号 発行日▶2016.8.24

公立藤岡 総合病院

地域医療連携だより

病院の理念
患者本位の医療

基本方針

- 1 患者さまの意思を尊重し、信頼される医療を提供します。
- 2 地域中核病院として、高度な医療と救急医療の充実に努めます。
- 3 急性期病院として関係機関と連携し、地域医療の充実に努めます。
- 4 地域がん診療連携拠点病院として、機能の充実強化に努めます。
- 5 臨床研修指定病院として、地域医療を担う優れた医師の育成に努めます。
- 6 地域医療支援病院として、地域の医療人の教育・研修の充実強化に努めます。

研究理念 医師臨床研修 基本方針

臨床研修は、医師が、医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割と医療チームの一員であることを認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けると同時に医療安全への配慮を身に付けることを基本理念とする。

- ・ 基本的知識・技能・態度を習得する。
- ・ 患者中心の医療を理解し、実践する。
- ・ チーム医療の重要性を理解し、実践する。
- ・ 医療安全を深く理解し、実践する。
- ・ 医療人としての倫理観を養成する。
- ・ 地域医療の重要性を理解し、実践する。

循環器内科のご紹介

循環器内科部長 井上 雅浩



当科のスタッフは、非常勤医を含め11名です。若手が少ないのが特徴です。昨年度から木曜午後に不整脈専門外来を開設しました。

設備では心臓血管撮影装置、心臓CT、核医学診断装置、心臓MRIなどがあります。心臓CTは外来で簡便に検査を行えます。そのため、コントロール不良な糖尿病症例など、ハイリスク症例の冠動脈病変スクリーニング検査としても有用です。より多くの患者さまが最新医療の恩恵を受けられるようになればと思います。

今年度は受け入れ要請のある循環器症例は全て受け入れることを目標の一つといたしました。CCU(HCU)のベッドを常に確保し、いつでも受け入れができるよう対応していきます。血管外科領域の疾患については手術適応を判断し、近隣の心臓血管外科医と連携を取りながら診療を行っております。

カテーテル治療は狭心症、急性心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症、透析シャント不全等に行なっております。

当院の理念は患者さまの立場にたった医療の確立です。患者さまにとって最善の医療を提供していきたいと考えております。今後とも宜しくお願い致します。

平成27年診療実績(H27年1月~12月)

急性心筋梗塞	102例	経皮的冠動脈形成術(緊急)	107例
急性心不全	240例	経皮的冠動脈形成術(待機的)	167例
閉塞性動脈硬化症	25例	末梢血管形成術	23例
ペースメーカー 新規植え込み	28例	ペースメーカー 交換	19例

チーム医療 NSTのご紹介



外科部長 中村 卓郎

当院で行われているチーム医療の一つとして、NSTを紹介させていただきます。NSTとはnutritional support teamの略であり、栄養管理を医療チームでサポートしております。

医師は栄養研修を修了した6名が専任で、日本静脈経腸栄養学会(以下、JSPEN)指導医がNST活動を総括しております。看護師はNSTリンクナースが19名おります。うち、摂食嚥下障害看護の認定看護師がNST専従で、JSPENのNST専門療法士(以下、専門療法士)4名が専任です。薬剤師は専門療法士2名、管理栄養士は栄養研修修了4名(専門療法士1名)が専任で、言語聴覚士、臨床検査技師、社会福祉士などで、NSTチームが構成されています。また、院内の褥瘡対策チーム、感染対策チーム、緩和ケアチームとも連携しています。一方、歯科は地域連携をいただいて、口腔ケアを進めております。



入院時に全ての患者さんに対し看護師により栄養スクリーニングが行われ、必要に応じて管理栄養士により栄養管理計画が立てられます。NST回診は、二週間で当院の全10病棟を回っております。栄養管理の充実により、患者さんの状態の改善をはかり、栄養不良による合併症の予防に努めております。

災害訓練報告



安全管理センター長 設楽 芳範

当院は地域災害拠点病院として、災害発生に備え、対策マニュアルの見直しや訓練を定期的に行っています。今年は5月14日(土)に院内災害医療訓練を行いました。群馬県南部を震源とする大地震により多数の傷病者が発生したという想定で約120人の職員とボランティアが参加して行われました。今回の訓練では、職員がマニュアルを理解し、行動できるか確認する為に細かい役割分担は決めず、医療資器材も職員自ら調達するような設定としました。発災から約3時間までの時間を使って災害対策本部の設置、各班の編成による災害医療体制の確立、傷病者のトリアージや救護などを行いました。訓練終了後の振り返りでは、参加者から様々な意見や問題点の指摘があり、今後の訓練や災害時の対応に生かしたいと考えております。

